

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	株式会社伝統芸能オフィス
公演団体名	一般社団法人 三宅狂言会

内容	
ワークショップは次のパターンからご選択いただけます	
その1	キノコ役12名+鬼茸役先生1名参加 ……………狂言『茸』のお稽古(90分) ※詳細は次ページへ
その2	クラス単位参加 キノコ役12名+鬼茸役先生1名…狂言『茸』のお稽古(90分) その他の児童……………謡『兎(うさぎ)』のお稽古(45分)
その3	全校児童・生徒参加 全校児童・生徒参加……………午前中 みんなで楽しむ狂言体験(午前中45分) キノコ役12名+鬼茸役先生1名……………午後 狂言『茸』のお稽古(90分) みんなで楽しむ狂言教室 1, はじまりのあいさつ まずは狂言師と児童生徒がお互いあいさつをして狂言教室の時間が はじまります 2, みんなで狂言体験をしよう 狂言の歴史、成り立ちなどを簡単に解説したあと、 狂言のかまえ(姿勢)、すり足(歩き方)、発声(大声で大笑い)など 狂言の基本所作を全員で一緒に行います 3, 着付け体験 装束を着てみよう 先生に狂言の装束の長袴を着付けします 4, 狂言の謡「兎(うさぎ)」をうたおう! 狂言の謡「兎(うさぎ)」を全員でうたいます 本公演では、みなさんの謡いにあわせて、狂言師が小舞を舞います

狂言「茸」のキノコ役のお稽古 ワークショップ時間 90分

参加者

キノコ役…12名 鬼茸役…先生 1名



選出方法

弊社のおすすめ

- ① 違う学年から選出。
- ② 同じ学年やクラスの中から選出。
違う学年から選出した時の効果 (先生の感想より)
- 異学年の児童生徒たちが一つの目標に向かって共に頑張る楽しさや達成感を実感することができた
- 自主的に教え合ったり低学年の面倒を見たりする態度が育った

まずは足袋を履いてお稽古します。最近では足袋を履く機会がほとんどないので、履くことにも一苦労します。これも経験のひとつです。



礼にはじまり、礼に終わる。まずはあいさつして稽古にのぞみます。



茸(くさびら)の動き方の練習。舞台一杯にキノコ達が動き回り狂言師のセリフにあわせてビタッと動きをとめます。



体育館のフロアでキノコ役の動きを練習します。しゃがんだ格好のままフロア内を動き廻りますので動きやすい格好(体育着など)で行います。鬼茸(おにたけ)役の先生も一緒に練習します。



鬼茸役の先生の練習「とってかも〜」というセリフを大きな声を出して言う練習をします

ワークショップ終了後、各自本番までの宿題

作り方の
テキスト
お渡ししま

本番で使用するキノコ役の笠と面を創作!

ワークショップ終了後、本公演までに舞台出演時に身につける面と笠をオリジナルで作成します。
児童生徒が想像を膨らませて作成した面や笠をつけて舞台に登場することにより、
世界に一つしかない狂言を生み出すことができます。
材料の一部はこちらでご用意いたします。



いままで児童生徒がつくった作品の一部です

本番の公演で面と傘をつけて登場します



狂言の「面」について説明します

笠の作成 について

作成時間の余裕がない場合は、
笠の作成を割愛して弊社が用意
した物を使用することも可能です

面と傘をつくる効果

いままで上演してきた学校の反応をみてわかったこと

- 観客の児童生徒がそれぞれの「面」と「笠のおもしろさを楽しみながら見ている。
- 色とりどりの「面」や「笠」は、庭に生えてきた怪しいキノコを表現するのに効果的。
- 児童生徒の想像力はとてもおもしろく、それぞれオリジナリティあふれる作品が生まれる。
- カーテンコールで面をはずして出てくると、あのおもしろい面を作ったのはあの子だったのか!と驚きがある。

タイムスケジュール（標準）

ワークショップ開始時間が 9:30 の場合

8:30 準備開始

9:30 ワークショップ開始

11:00 ワークショップ終了・片付け開始

11:30 片付け終了

派遣者数

3名～4名

内訳(ワークショップの内容により人数が変わります)

・主たる指導者——1名 ・従たる指導者——1～2名

・スタッフ ——1名

学校における事前指導

○狂言「茸—くさびら」

- ・キノコ役に最大 12 名出演、出演する児童、生徒、先生
- ・本番上演と同じ寸法の舞台上で各キノコ(茸)役の演じる位置と簡単なセリフを覚える
- ・キノコ(茸)役が演じる時につけるお面と笠の製作指導
- ・動きとお面、笠製作のためのサンプル映像や写真は事前にお渡しします
- ・事前ワークショップでのお稽古の様子をビデオカメラで撮影していただき、本公演に向けての練習の時に活用願います。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	株式会社伝統芸能オフィス
公演団体名	一般社団法人 三宅狂言会

演目
<p>第1部</p> <p>1、狂言解説 ～狂言ってなんだろう?～</p> <p>2、狂言 『盆山 ぼんさん』</p> <p>3、狂言体験 ～僕も私も1日狂言師～</p> <p>+ + + + + + + + 休 憩 (15分) + + + + + + + +</p> <p>第2部</p> <p>4、狂言 『茸 くさびら』—大勢狂言— 児童生徒たちと共演</p> <p>出演：三宅狂言会 鬼茸役…学校の先生 キノコ役…児童生徒 12名</p> <p>※ 監修 振り付け……三宅右近 (和泉流狂言方)</p> <p>※ 企画原案 演出 脚本 構成……なかつぼ まこと</p> <p>公演時間(90 分)</p>

派遣者数
9名(内訳 出演者 5名 スタッフ 4名)

タイムスケジュール (標準)
9:00～ 到着・設営
11:00～ リハーサル
12:30～ 昼食休憩
13:00～ 開場
13:30～15:00 公演
15:00～17:00 撤収・完全退館

実施校への協力依頼人員
とくにありません(事前に体育館の簡単なお掃除をお願い致します)

演目解説



第1部

1、狂言の解説 ～狂言ってなんだろう?～

初めて狂言、伝統芸能の世界に触れる児童生徒のために、簡単な歴史や、能舞台のしくみ、役割、狂言の衣裳、装束(しょうぞく)、狂言独特の演出方法などを実演をまじえながらわかりやすく解説します



狂言を楽しく鑑賞する決まり事をわかりやすくお話しします

狂言の歴史

能舞台の構造について

狂言の衣裳のあれこれ

狂言に登場するゆかいなキャラクター

など

2、狂言「盆山 ぼんさん」 実演を交えた狂言の特徴について

狂言「盆山」は狂言で表現される基本的な所作(足、手、腰の動き)、セリフ、擬音などの特徴がふんだんに盛り込まれております。

盆山の中の ただ観劇するのではなく、シーンを一度止めて丁寧に特徴について確認しながらご覧いただけます

狂言の特徴

名乗り……「このあたりの者でござる」など名乗り、自分が何者かを観客に知らせます
道行き……セリフを言いながら能舞台の柱に沿って三角に歩き目的地まで向かう様子
擬音……垣根をのこぎりで切る音、垣根を破る音や動物の鳴き真似をする様子など

【盆山あらすじ】

ある男が登場。友達が当時流行の「盆山」のコレクターで、その男もその盆山が欲しくなり友達に一つ分けてくれと頼みますが、友達はケチで分けてくれません。そこで男は夜にこっそりと友達の家へ盗みに忍び込むが、物音に気付いた友達は顔見知りと分かり、からかってやろうと色々な動物の鳴き声をさせるのですが……果たしてどうなることでしょうか。

盆山を見た後は、狂言「茸」に出演する児童生徒をみんなで送ります

狂言「茸」に狂言師として出演する代表の児童生徒たちが、装束(狂言の衣裳)に着替えるために楽屋へ移動します。みんなで声援をおくりましょう!

3、狂言の体験～僕も私も一日狂言師～ **全員参加ワークショップ**



狂言のお稽古は、
「礼に始まり礼に終わる」
まずはお辞儀から。
きちんと正座をして、
大きな声で「よろしくお願ひ致します」と挨拶。
狂言師が基本の動作をレクチャーします。

◀よろしくおねがひしますとみんなであいさつ
心が引き締まります。

狂言の基本所作(動き)を学ぶ

狂言にはさまざまな所作があります。泣いたり、大笑いを、
観客にわかりやすくするために、大きな動作をしてみせます。

狂言に出てくる擬音の世界

狂言『盆山』のもたくさんの擬音が出てきました。
ほかにも狂言にはいろいろな擬音があります。
狂言師がクイズ形式で擬音についての問題を出題します。

みんなで謡い(うたい)を謡おう

歌謡的要素があるのも狂言の大きな魅力の一つです。
馴染みやすい狂言の謡(うたい)「兎(うさぎ)」の一節を
全員で謡ってみましょう。



正座をして姿勢をただすと
自然と声が出るようになり
気持ちもひきまします。



こんなこともやりました 小規模校の場合など

事前ワークショップで、「草」のお稽古の他に、
謡いと小舞を練習して本公演で
披露したこともありました。



そのころ舞台裏では……

出演者が狂言の装束を着付けながら、言葉をかけて緊張をほぐしていきます
装束に着替えた児童生徒は大興奮!何度も鏡で自分の姿を見たり、友達同士で
ほめ合ったりと気分は最高潮に!



共演者として出演する狂言師と
きちんと正座をして向き合いあいさつを
かわします



出演者が衣裳をつける場面も見ることができるのは
貴重な体験です



児童生徒同士お互い衣裳のチェックをします

児童生徒たちは、狂言の本物の装束(衣裳)を身につけます。
はじめて着る装束に子どもたちの気持ちも高まります。自分たちが想像して作成した^{おぼて}面と
笠をつけて舞台にたつこの瞬間は、この舞台でしか味わえない
一生の思い出に残ることでしょう。

第2部
4、狂言「茸くさびら」～大勢狂言～

児童・生徒12名が
主役のキノコ役として出演

先生も
鬼役に変身!

笠と面

自分たちで作成した
笠と面をつけて登場!
キノコの独特の不思議な
世界を演出します

(作成時間の都合により、
笠はこちらが用意したものを
使用することも可能です)



登場人物

鬼茸(おにたけ)
先生も鬼茸役として出演

装束

本格的な狂言の装束を身につけ
舞台を華やかに彩ります

主人

家にキノコがたくさん
生えてきたので、
山伏に祈祷を
おねがいする

山伏

主人からの願いで
キノコを退治しようと
祈祷するが……

【あらすじ】

ある家でキノコがたくさん生えてきたので、その家の主人が気が悪くなってキノコを退治してもらおうと山伏に祈祷をお願いします。霊験あらたかと自負をしている山伏は祈祷を始めます。ところが山伏が祈れば祈るほどキノコは増え続け家の中はキノコだらけになってしまいます。走り回るキノコ、いたずらをするキノコ、最後はおどろおどろした鬼茸(おにたけ)まで出現、とうとうキノコに追われて逃げ出します。



「ポーロンポロン」と山伏が祈祷を唱えれば唱えるほど



どんどんキノコがふえてゆきます



祈祷がやむとぴたっと動きをとめるキノコたち



クライマックスでは鬼茸が出てきて……

カーテンコール

本日出演した児童生徒が最後に名前を呼ばれて出てきます。
ここではじめて面と笠を脱ぎ顔を出してあいさつします。
すると、あの茸はあの子だったのかと驚きの声があがります



ひとりひとり狂言師から名前を呼ばれて、自分の作った面と笠を見せて出てきます

鬼役の先生は誰なのか当日まで内緒



観客のみなさんにお礼の挨拶をして幕を閉じます。みんな演技をやり終えた達成感に笑みがこぼれます



最後にみんなで記念撮影。忘れられない思い出がのこります。 終演後、最後までがんばった児童生徒たちと共演者とお互いにあいさつをします。

公演の効果

狂言師は真剣に児童生徒と向き合い、指導の熱意が自然と児童生徒に伝わります。
最初小さい声だった児童生徒も、お稽古を終える頃にはきちんと正座をして大きな声で挨拶できるようになっています。その様子を見ていた先生までも背筋を伸ばして正座をしながら児童生徒を見守っています。

自分たちが主役になって舞台に立つという責任を持った児童生徒は、自主的に稽古をし本番に臨みます。自主稽古中に喧嘩をしまい、そのことで貴重な練習時間を無駄にしたと先生に謝りにくる児童生徒もいて、先生がそのめざましい成長ぶりに驚いたそうです。
この公演は、児童生徒と出演者が共演し、観客の児童生徒も参加して一つの舞台を創り上げていく唯一無二のプログラムです。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

「狂言の楽しさを全員で体験する」

子どもたちに、実際の狂言の舞台を体験してもらうことで、表現力、創造力を豊かにし、伝統芸能をより身近に感じることができます。

狂言では、心からの挨拶と感謝でお稽古が始まります。背筋を伸ばすことで、大きな声を出すことができます。

狂言には猿、犬の鳴き声や、扉を開くときの音などの擬音がたくさん出てきます。それらを実演しながら子どもたちになんの擬音なのかを想像してもらいます。また、子どもたちに親しみやすい動物を表現した「兎(うさぎ)」の謡(うたい)を全員でうたいます。お腹の底から大きな声をだして会場に響き渡るように謡います。

低学年には難しいと思われる狂言ですが、子どもたちは言葉の響きの面白さや狂言独特の空気を自然と感じ取って楽しむ能力があります。観客の児童生徒は、自分の友人や身近な人間が舞台に出ていることで、より親近感がわき、狂言をもっと身近に感じていただけるようです。

実際に児童・生徒が登場するやいなや、会場からあたたかい笑いがあふれ出し、出演の子どもたちが作った「面」や「笠」を見て、その色とりどりの模様や形のおもしろさを楽しんでいます。

次代を担う子どもたちが、狂言の舞台に参加し、作品を作り上げることで強い印象を残すことができます。狂言をより身近に感じていただき、将来において狂言を支える観客が育つこと、また、この舞台を経験したことで、狂言師になるきっかけづくりになればと思っております。

児童生徒とのふれあい

「自分たちで一つの作品を作り上げる」

この舞台の**主役**は、**子どもたちと先生自身**です。

鬼草を先生が演じ、児童生徒が主役となって、**実際の舞台で演じる**ところに大きな特色があります。

狂言では、お客様に楽しんでもらうために、きびしい稽古を重ねて舞台に出ます。

体験する児童・生徒には、**一つのことに取り組むことの大切さ**、うまくできたときの達成感など感じていただき、今後何かをやり遂げる時には、この経験を思い出して**一つのことをやり遂げる力**をつけてもらいたいと思います。

「演技力、表現力を磨く」

子どもたちが演じるキノコはさまざま。

ちょこちょこと可愛らしい動きの低学年の子のキノコ。
高学年はしっかりした動きのキノコ。
鬼茸役の先生の怖くも威厳のある動き。
それぞれ個性的なキノコたちが舞台の上で動き回り、
創造性や演じる力を高めることができます。

「共演で得られるもの」

各学年から参加児童・生徒がそれぞれ集まり一つのことをやり遂げる。
すると、参加児童同士が自主的に教え合い、高学年の児童が低学年の児童を
フォローするなど**コミュニケーションが生まれます。**
また自分自身の個性を磨くだけでなく、他の人の動きを観察して、
自分との違いを研究するなど自分を客観視することもできます。
お互い協力して舞台を作り上げることで、**チームとしての団結力が深まる**ばかり
ではなく、他の人よりも、もっと大きな声を出そうなどの、いい意味での対抗意識
が生まれ、**物事に取り組む意欲が高まる**効果があります。

指導者は子どもたちと真剣に取り組みます。子どもたちはその期待に
答えようと一生懸命取り組んで、お互いの信頼関係が築き上げられます。

「想像力・製作力が高まる」

自分の想像力を駆使して、茸の顔を「面」と「傘」をつくります。
子ども達の自由な発想でデザインしたものは面白く、
舞台をより一層豊かにさせることができ、
児童・生徒それぞれの個性を表現する力が高まります。
先生、友達、家族の方々と話し合いながら
オリジナルの「面」「傘」づくりを楽しみながら作成しましょう。

- ※ 説明書はあくまでも作り方の一例としてお渡しします。
作る素材も自由に考えさせることで面白いものが出来上がります。
(子どもたちの自由な発想を大事に)